

小さなことからコツコツと

(中国) S物流株 Y. N

私は運行管理担当として日々点呼を行い、事故が発生した際は対応している。事故を起こした乗務員はもちろん辛いだろうが、事故を起こさせてしまった管理者も辛いものだ。

事故を起こして悔んだり落ち込んだりしている乗務員の姿は見たくない。事故を発生させて欲しくない、事故を起こさせてはいけないと強く思う。

当社には、車線変更時8回以上ウインカーを点灯させる、駐車場は輪留めを装着するというルールがある。

当社は、定期的に安全パトロールというものを行っている。社用車で高速道路を走行し、通過する全てのパーキングエリア、サービスエリアに立ち寄る。当社車両が車線変更時に8回以上ウインカーを点灯させているか、休憩中は輪留めを装着しているか等を確認し、できていない乗務員に対して指導している。

ある日、パトロールに出かけた際、走行中の福山ナンバーの当社大型車両と遭遇した。私のよく知った中堅乗務員だった。その大型車両は8回以上ウインカーを点灯させて車線変更した。帰社してその乗務員の事故歴を調べたら、事故が少なかった。その時会社のルールを守る乗務員は、事故を起こさないのだと改めて感じた。

また、定期的に会社の駐車場を巡回し、駐車車両のチェックを行っている。輪留めを装着しているか、洗車はできているか、車内の整理や掃除はできているか等を確認し、できていない乗務員に対して指導している。

毎週やっていて気付いたことがある。きれいに洗車ができている乗務員、車内をきれいにしている乗務員は事故が少ないのだ。ある日、助手席の安全窓から車内を覗いたら、ゴミや備品等が車内に散らかっている車がいた。誰の車かすぐに調べてみた。その乗務員は車両事故こそ少ないが荷物事故が多い。運転や荷扱いと直接関係があるかは正直わからないが、乗務員にとって相棒ともいえるトラックを大事にできる乗務員は事故が少ないと感じた。

点呼の際に気にしてみると、事故をしない乗務員はきちんとシャツをズボンの中に入れ、ヒゲをきれいに剃り、元よく挨拶をしてくれる。軽微なものであっても事故を頻繁に発生させる乗務員はよくズボンからシャツが出ており、ボンボンと挨拶をする。関係ないという人もいるだろう。私にはトラックの乗務経験がないため、事故を発生させた乗務員に対して運転の仕方を教えることはできない。だが、当社の乗務員は何でもできるプロフェッショナルの集団だ。私は私にできることを全力でやっつけようと思う。身だしなみなど小さなことからコツコツと指導していこうと思う。

先日、ある乗務員が車両事故を発生させた。入社して1年未満の新人ドライバーだが、1か月に2件の車両事故を発生させた。ドライブレコーダーの映像を一緒に確認し、原因を追求しようとするのだが、上手いかない。本人に事故に対する反省がなく態度を改めないのだ。彼自身もおそらく感じているだろうが、これ以上事故を発生させるわけにはいかない。

そこで、事故発生の前後だけではなく、他の時間帯の映像も確認してみたのだが驚いた。運転中に携帯電話を操作したり、両手で書類を掴んだりしている。視線は前方を見ておらず完全に脇見運転だ。片手運転の時間が多く、ろくにウインカーも点灯させずに車線変更し、踏切の手前では一時停止をしない。研修が終了し独り立ちした時からすべきだった、今さら遅いかもかもしれないと思いつつ、毎運行帰着時にドライブレコーダーの映像の検証を義務付け、毎運行ドライブレコーダーの映像を本人と一緒に確認することにした。すると、意識が変わったのか、運転姿勢が驚くほど変わった。両手でしっかりとハンドルを握り、車線変更する時はしっかりとウインカーを点灯させている。もちろん運転中は携帯電話の操作はしていない。毎運行ドライブレコーダー映像の確認を始めて以来、事故を発生させていない。初めからドライブレコーダーの映像を毎運行確認したら良かったと後悔した。彼が発生させた事故は私のせいでもあると痛感した。彼が定年までという約20年ある。良い運転を続けても事故を発生させる可能性はゼロとは言えない。もしそうなった際、彼が事故なんて珍しいと言われるような乗務員になって欲しいと思う。そのためにも、彼は嫌だろうがドライブレコーダー映像のチェックは継続する。いつ卒業させるかは決めていない。

今、私の目の前の画面に映る良い運転姿勢が体に染みつき、いつか後輩を指導できるような模範ドライバーになって欲しいと切に思う。私も彼と同じ転職組。彼とともに成長できるよう私も精進する。